

同窓会創設 130 周年記念事業 「クラブハウス建設基金」最終報告

① 130 周年記念植樹の桜



ウジョウシダ

2019(平成 31)年、同窓会創設 130 周年記念として大学構内にそれぞれ品種の異なる 13 本の桜を植樹した。講堂前や学生会館前の桜は、翌年から花を咲かせていたが、事務棟前の枝垂れ桜は根付きが思わしくなかった。

しかし、業者による手入れや、大学当局の日常的なケアにより今年も見事な花を咲かせた。

② クラブハウス建設基金

2020(令和 2)年 1 月 15 日「クラブハウス建設基金趣意書」を全会員に送付した。送付の数日後には振り返っていただき、反響の大きさを感じた。「亡くなった家族がお世話になった大学のために」「後輩の活動を支援したい」と、各地から基金への声が寄せられた。

ご協力いただいた方のご芳名は、会報「まほろば」33～35 号に記載しその都度会計報告を行ってきた。

2022(令和 4)年 3 月末現在の総数

会員 1059 名、趣旨賛同者・企業等 20 件
収入合計 12,840,228 円 (手数料を除く)

建設基金は、2 回に分けて大学当局に贈呈した。

第 1 回は基金が 1,000 万円に達した 2020(令和 2)年 12 月 20 日、ホテル日航奈良に於いて「クラブハウス建設基金贈呈式」を催し、奈良教育大学の加藤久雄学長に手渡した。

第 2 回は 2022(令和 4)年 2 月 25 日、学長室に於いて 280 万円を同窓会役員から加藤学長に贈呈した。

第 2 回クラブハウス建設基金贈呈



1280 万円の基金を大学に贈呈できたことを 2022(令和 4)年 4 月に開催された正会員総会に於いて、中川代表理事から、詳細に報告された。

③ クラブハウスの建設

中間報告の通り、同窓会単独でクラブハウスを建設することは叶わなかった。「研究棟の老朽化に伴う建て替え工事」の一環として、同窓会の基金も活用した新たな研究棟を建設し、その一部に「課外活動共用室(仮称)」を設けるという計画のもと、工程が組まれた。



掘り出された土の山

2021(令和 3)年 7 月、古い部室の一部が取り壊され、工事現場の埋蔵文化財の調査が行われた。大学構内が新薬師寺の旧境内にあたり

遺構発見も考えられたためである。調査終了後 9 月より、予定通り基礎工事が始まった。



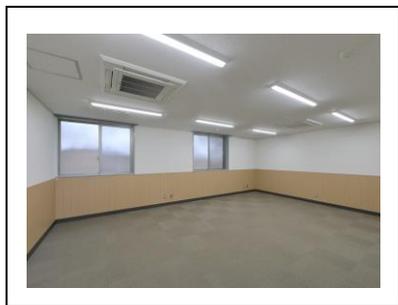
当面は、2 部屋の課外活動共用室であるが、今後 10 年程度かけて改装し、最終的に 40 室程度のクラブハウス棟として整備する。そのため、各部屋には予め 2 つの扉が作られ、今後パーティション等で対応できるように施工されている。



2022(令和 4)年 3 月、写真ではプールの奥に見える研究棟が完成した。課外活動共用室として学生が使用する部屋は、1 階の右手前の 2 室である。



課外活動共用室



室内は、学生が快適な環境で活動できるように、空調設備が完備している。今後、学生や大学当局との話し合いを持ち、活動に相応

しい室内の設備を整えていくことにしている。

④ 銘板について



2022(令和4)年4月に行われた正会員総会の終了後、内覧会を実施した。ずらりと並んだ基金への協力者のご芳名の数に、感謝の思いを新たにした。

会員の中には、取り付けられた銘板に刻まれた関係者の名前を探し出し、スマホで写真を撮る姿も見受けられた。今回取り付けしたのは、第1次分の銘板2枚であるが、最終的には1万円以上の基金を寄せていただいた方のご芳名を全て掲載し、都合3枚となる。

⑤ 130周年記念事業の終了

クラブハウス建設基金の募集を終え、研究棟が完成したことを受け、2022(令和4)年3月末をもって130周年記念事業を終了した。

振り返れば、2019(令和元)年8月31日に「130周年記念事業実行委員会準備会」を開催して以来、2年半に及ぶ取り組みであった。その間「参与」「記念事業実行委員」の皆様には、何かとご協力をいただいた。

新型コロナウイルス感染症の蔓延の時期と記念事業が重なったことで、当初の計画通りに進まなかった面もあったが、同窓生をはじめ多くの皆様方にご支援を頂いたことに改めて感謝申しあげたい。

金額に関わらずクラブハウス建設基金にご協力いただいた全員の皆様の名簿は、大学当局と同窓会で大切に保存していくことになっている。

今般の事業終了に伴い「参与会」「記念事業実行委員会」を解散し、2022(令和4)年4月に開催された正会員総会に於いて関係の皆様へ感謝状を贈呈した。



⑥ 竣工式

2022(令和4)年6月1日「クラブハウス竣工式」が、大学関係者・学生代表・同窓会理事の参加のもと行われた。宮下俊哉新学長は、同窓会への謝辞とともに、「学生は、クラブハウス竣工を機に同窓会に思いを寄せ、仲間との結びつきを強くして欲しい」と話された。学生代表からは、謝意とともに「クラブやサークル活動は学生生活の根幹であり、有意義に活用していきたい」との話があった。吉田貴子理事の挨拶の後、銘板が除幕された。



「課外活動共用室」として今回2部屋が設置されたが、全面的な「クラブハウス」の運用は、10年後の構内の工事完了を待たなければならない。

しかし、それまでの間も、同窓会と学生会員との話し合いを継続して行い、学生のニーズを少しでも汲み上げていくようにしたいと考えている。

130周年の記念事業として植樹した桜の幼木も、10年後には立派に成長し、「クラブハウス」の全面運用に花を添えてくれることだと期待している。